

【授業科目】 コミュニケーション論Ⅱ Communication II

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
大西 信行、松田 陽子、永住 沙樹	3年次前期	選択	1	15	講義	あり	巻末掲載	否
授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する フィードバック 方法	<p>授業概要／コミュニケーションを通じて自己理解、他者理解を深める。コミュニケーションの構造を理解し、実際のカウンセリング場面のロールプレイを逐語録にして、自分のカウンセリングの過程を振り返り自分を知る手がかりにする。そしてスーパービジョンを体験し、自己の課題を明確にし、効果的なコミュニケーションをとるための基盤をつくるための演習を展開する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／毎回振り返りの時間をとり、グループおよび各個人に口頭でロールプレイについてフィードバックを行う。レポートにはコメントを記入する。</p> <p>*実務経験を持つ教員が授業を進める。</p>							
授業の 位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー②「人間として自己の成長に努め、愛情豊かな社会人として広い見識と高い倫理観を持ち、看護の対象となる人々に共感をもって接することができる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が 到達すべき 目標)	<p>①自己のコミュニケーションの構造を知るために、自分のコミュニケーションについて考えることができる。 ②カウンセリングの逐語録を作成し振り返り自己のあり方、コミュニケーションの傾向について考察できる。 ③自己のコミュニケーションについてその傾向や課題を知り、修正発展させることができる。</p>							
時間外学習 に必要な 内容・時間	<p>第1回 事前学習：コミュニケーション論Ⅰのプロセスレコードを振り返り、その場面での自己の課題について明確にしておく (30分)。 第2～3回 事前学習：カウンセリング場面のイメージが持てるように、課題の中から取り上げたい問題に関してあらかじめ考えておく (30分)。 第4～5回 事前学習：第2回3回のロールプレイの振り返りをまとめ、次回に活かせるようにしておく (30分)。 第6回 ICレコーダに録音したカウンセリング場面についておこした逐語録の分析を事前に行う (60分)。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間 (2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回) (1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回) (1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回) を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 自己理解・他者理解 コミュニケーションⅠで作成したプロセスレコードや基礎実習での対象とのコミュニケーション場面の基に自己のコミュニケーションの傾向や課題について考察する。またどうすれば変化できるかについても考える。</p> <p>第2～3回 ロールプレイ (演習) コミュニケーションはプロセスであり、他者との相互に影響し合いながら発展してゆく。カウンセリング場面を想定し、ロールプレイを行いその場面についてグループで振り返り、自分自身の傾向やコミュニケーションの特徴を知る。</p> <p>第4～5回 ロールプレイ (演習) 数名でグループをつくり、カウンセラー、クライアント、観察者の役割を体験し、ICレコーダに録音する</p> <p>第6回 ロールプレイ 自己の振り返り 逐語録の作成</p> <p>第7～8回 振り返り・スーパービジョン 逐語録を基に、スーパービジョンを受け、対象と自己との「あいだ」、自己の洞察を深める。</p>						<p>全て 大西、松田、永住</p>	
評価方法 評価基準	<p>逐語録・レポート 50%、演習 50%</p>							
教科書	なし			参考書等	なし			
学生への 助言等	<p>自己理解を深め、自分自身のコミュニケーションの傾向や影響される因子について考えます。体験の知を深め、さらにコミュニケーションの力を高めていくプロセスを学びましょう。</p>							